

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和7年(2025年)

8-9月号

(通巻 219号)

2025年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

オキシジミ

泥干潟に多い二枚貝です。干潟では黒色ですが（円内）、本当は明るい色です。最近はい獲りされてしまっています。

P1 ☀️ いきもの写真館
オキシジミ

P2 ☀️ 長田谷津いきもの暦
8月と9月の暦
/ 3

P4 ☀️ 花を透明にして観る
ミソハギ

P5 ☀️ 長田谷津のとりたち
ヒヨドリ

P6 ☀️ くすのきのあるバス通りから
庭のキジバトの巣

P6 ☀️ ミニ解説 市川市域
市川砂州

P7 ☀️ わたしの観察ノート
5～6月の記録

P8 ☀️ ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。



自然博物館では学芸員が記録した自然観察の記録を自然観察週報としてHPで公開しています。その中から、長田谷津のここ10年の記録に焦点を当てて、日付順で記載しました。長田谷津の自然の移り変わり、季節指標などを感じていただければと思います。

長田谷津いきもの暦

8月

斜面林のクヌギには樹液を求めて、カブトムシやノコギリクワガタが集まり、夏の盛りを思わせますが、季節の移り変わりは早く、中旬には秋の気配を感じます。湿地ではミソハギが咲き、下旬になるとツクツクボウシの鳴き声で包まれ、夏の終わりを告げられます。

- 1日 ニホンミツバチの巣を見に行くと、表面の幹にびっしりいました(2021)
- 2日 コブシに立派な実がいくつもついていました(2016)
- 3日 園路のすぐ脇で、オオスズメバチが巣を作っていました(2024)
- 4日 ホトトギスのオスの「キョッキョッ」という声に呼応するように、メスの「ピピピピピ」という声が聞こえました(2024)
- 5日 キツネノカミソリが今年もきれいに咲きました(2017)
- 6日 園路のそばにアオヤンマが止まっていた(2017)
- 7日 オニヤンマが水路で縄張りを張っていて、同じところを行ったり来たりしていました(2022)
- 8日 斜面林の低い枝先にコノシメトンボがとまっていた(2024)
- 9日 ヘイケボタルがちらほらと飛んでいました。最盛期を過ぎた感じでした(2017)
- 10日 ヤンマの黄昏飛翔が活発で、ヤブヤンマ、マルタンヤンマ、ギンヤンマを確認しました(2020)
- 11日 おやこ自然観察会の参加者が、中央水路でモクズガニを捕まえました(2019)
- 12日 中央水路で3匹のハグロトンボのオスからみあうように飛んでいました(2017)
- 13日 田んぼの草刈りをしました。あぜには、アゼガヤツリが生えていました(2018)
- 14日 オオカマキリの成虫を見かけました(2022)
- 15日 ミズタマソウが湿地の一角で群生していました(2015)



キツネノカミソリ



ミズタマソウ

- 16日 ツリガネニンジンやアキノタムラソウ、ノハラアザミが咲いていました(2016)
- 17日 タ方、人がいなくなった園路の上をタヌキの家族が歩いていました(2018)
- 18日 花が少ない時期ですが、ミソハギはきれいに咲いていました(2020)
- 19日 ミツバの白い小さな花が咲き始めていました(2020)
- 20日 斜面林のシラカシの木に、ノコギリクワガタが20頭ほどついていました(2021)
- 21日 ガガイモの花が咲きました(2019)
- 22日 クマゼミの声が聞こえました。少しずつ増えていくのでしょうか？(2015)
- 23日 日中にもかかわらずパタパタ飛ぶヤママユを見つけました(2017)
- 24日 ハッカが紫色の花を咲かせはじめました(2016)
- 25日 シラカシのどんぐりが大きくなってきました(2018)
- 26日 ツクツクボウシの鳴き声に包まれていました(2022)
- 27日 スズメウリの白い可愛らしい花と緑色の丸い実がいくつもありません(2015)
- 28日 —
- 29日 カワセミの幼鳥が大池にやってきました(2021)
- 30日 ウスバキトンボの姿をちらほらと見かけました(2020)
- 31日 キツネノマゴの花が咲き始めました(2021)



ミソハギ



ヤママユ

自然博物館では学芸員が記録した自然観察の記録を自然観察週報としてHPで公開しています。その中から、長田谷津のここ10年の記録に焦点を当てて、日付順で記載しました。長田谷津の自然の移り変わり、季節指標などを感じていただければと思います。

長田谷津いきもの暦

9月

暑い季節から涼しい季節へ一気に変わり、涼しさを待ちわびたように、ツリフネソウやツユクサなど、色とりどりの花が見頃を迎えます。オオカマキリやアキアカネなど秋の昆虫が目立ち、斜面林からは秋の到来を告げるようにモズの高鳴きが響き渡ります。

- | | | | |
|-----|---|-----|---|
| 1日 | ジュズダマの葉にクロコノマチョウの幼虫がいました(2021) | 18日 | ハラビロカマキリがヒグラシを捕らえて食べていました(2023) |
| 2日 | — | 19日 | アカメガシワにオオミノガの幼虫が何匹もついていました(2022) |
| 3日 | ツルマメの紫色の小さな花があちこちで咲き出しました(2016) | 20日 | ミゾソバが咲き出しました(2017) |
| 4日 | 秋の花が咲き始めました。ハシカグサの花は小さくて気づきにくいですが、たくさん咲いていました(2019) | 21日 | 「冬鳥一番のり」のカケスが今年もやってきました。カケスの鳴き声を聞くと、季節の移り変わりを感じます。(2023) |
| 5日 | ツユクサの青い花がきれいでした(2023) | 22日 | 草刈り作業をしていると、ニホンアカガエルを見かけるようになりました。越冬・産卵に向けた準備態勢になっているのでしょうか?(2022) |
| 6日 | 斜面の枝から垂れ下がったアマチャヅルに緑色の未熟な実がぼつぼつと実っていました(2015) | 23日 | ナツアカネ、アキアカネ、ノシメトンボ、コノシメトンボが目につきました。とくにコノシメトンボの真っ赤に染まった体が目につきました(2022) |
| 7日 | 斜面すそのアキカラマツがきれいに咲きました(2022) | 24日 | 今年はニオイタデがよく咲いています(2017) |
| 8日 | 青空をゆっくり旋回するサシバを見つけました(2020) | 25日 | 聞きなれない鳴き声が聞こえてきて、その方向を探すと梢にエゾビタキが3個体いました(2020) |
| 9日 | 昼間だというのに多くのエンマコオロギが鳴いていました(2018) | 26日 | 園路の上にベニスズメの幼虫がいました。拾い上げると眼状紋を見せつけ、まるでヘビのように威嚇をしてきました(2021) |
| 10日 | カラスウリの葉の裏にトリノフンダマシがいました(2024) | 27日 | ツリバナの実がみごとに割れて赤い種子が顔を出していました(2015) |
| 11日 | エゴノキの実が実っていてヤマガラが食べにやってきていました(2020) | 28日 | モズの高鳴きを聞きました。谷津の谷底に響きわたり、秋を告げます(2021) |
| 12日 | ツリフネソウの花がだいぶ増えてきました(2023) | 29日 | 枝の間を黄色い影が横切ったと思ったら、キビタキのオスでした(2020) |
| 13日 | コブシの実の塊りが割れて、オレンジ色の実が顔をのぞかせていました(2018) | 30日 | ヒヨドリバナが見事に咲きそろい、アサギマダラも飛来しました(2020) |
| 14日 | クヌギの樹液にサトキマダラヒカゲが来ていました(2022) | | |
| 15日 | 草むらでオオカマキリの成虫の姿が目立つようになってきました(2021) | | |
| 16日 | ボントクタデが咲き出しました(2020) | | |
| 17日 | 古い倒木を持ち上げると、いつものようにサワガニが隠れていました(2019) | | |



ツルマメ



ツリフネソウ



コノシメトンボ



モズ

花を透明にして観る*****

ミソハギ

花を薬品で処理して透明にしました。一般的な押し葉標本だと花も平らになってしまいますが、この方法だと立体を保ったまま内部構造を見ることができます。印刷物にすることで結局、平面になってしまいますが、実物をそのまま見れば立体的に花のつくりを理解することができます。



ミソハギの花

- ・萼（がく）は長く、その先端で花弁が開く。ラッパ型。
- ・花びらは6枚が円く並ぶ。
- ・雄しべは12本あるが、長短6本ずつで、写真では長い6本の先端の葯（やく）が見える。
- ・雌しべは1本で長さは長・中・短の3タイプがある。写真は長いタイプ。
- ・ミソハギに限らないが、透明化した花弁の脈は、葉の脈と似ていて、花弁が特殊化した葉であることが納得できる。

長田谷津のとりたち

自然博物館で行っている鳥類調査の記録から
一押しのとりにちをエピソードと共に紹介します。

ヒヨドリ

ヒヨドリは山林から住宅地まで、さまざまな場所で見ることができる「身近な鳥」です(写真 1)。電線にとまってピーヨピーヨとよく響く声で鳴く姿や、木の実や花をついばむ姿を見たことがある人は多いと思います。よく見かける鳥ですが、世界的な分布は主に日本と朝鮮半島周辺に限られます。意外とレアな鳥なのです。長田谷津では一年を通して見ることができ、繁殖も確認されています。巣は園路からすぐの手が届くような場所に作ることもあり(写真 2)、こんなところで大丈夫？と心配になりますが、余計なお世話でしょう。もし見つけたらほんの少しだけ観察して、立ち去ってあげてください。



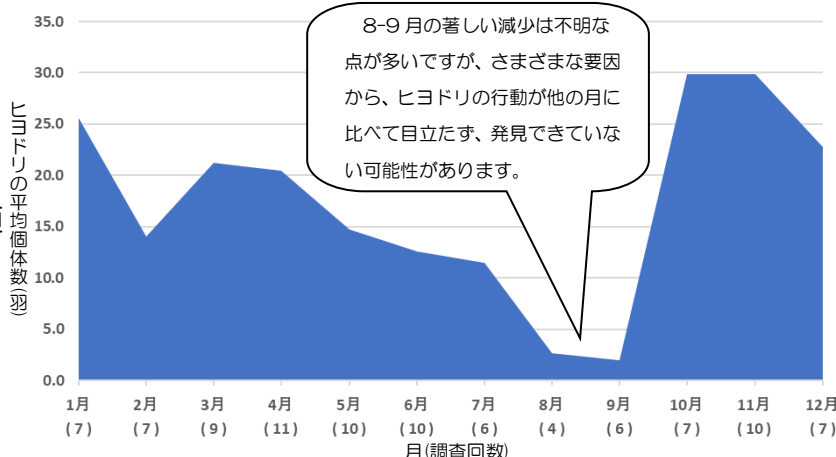
写真 1 赤褐色の頬が特徴
(2020 年 4 月 17 日 長田谷津)



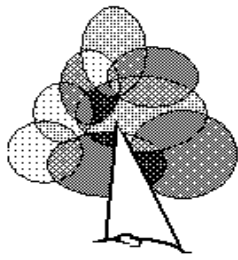
写真 2 園路の真上の巣
親を待つ雛の姿が確認できる
(2024 年 9 月 15 日 長田谷津)

ヒヨドリの個体数変化

下の図は、長田谷津を一周した時にカウントできる、ヒヨドリの個体数の平均を月別で示したものです。月によって変動があることがわかります。ヒヨドリの中で、高緯度地域や寒冷地で繁殖するものは、秋から冬に食べ物が豊富な地域に渡りを行うことが知られています。10月の増加は、渡りによるものです。その後越冬期に減少し、3月の渡りの時期になると再び増加傾向になりますが、秋の渡りほど目立ちません。5-9月は繁殖期で、繁殖期に長田谷津周辺にとどまるもののみとなるのです。



長田谷津のヒヨドリの1調査日あたりの月別平均個体数(2019-2020年)



庭のキジバトの巣

6月は、湿度が高く、最高気温が34℃の日が続きました。

7月1日の夕方、雷雨がありました。7日、ニイニイゼミが鳴き始めました。9日、33℃だった気温が、雷雨で23℃になり、寒いぐらいの涼しさでした。次の日あちこちで、ニイニイゼミが鳴いていました。7月14日から16日、台風による雨が降りました。17日、北方でアブラゼミが飛んでいました。21日、菅野と北方で、22日には八幡でも、ミンミンゼミが鳴き始めました。強い日差しで乾いた土に、雨がしみ込み、セミが地上まで、出られるようになるには、土の湿り具合にもよるのかなと思いました。

我が家のフェンスに、キジバトが2羽とまっていました。庭のネムノキの中心の、すき間だらけの巣の様な所に、座っていることがありました。草をくわえてフェンスにとまっているのを見ました。「家の中から、観察ができる」と、期待していましたが、いつの間にか、キジバトの姿を見なくなりました。残念です。

八幡のバス通りの街路樹は、クスノキです。「今年は、アオスジアゲハを見ていないな」と思っていました。ある日、飛んでいるのを見かけ、目で追うと、クスノキの高い所をつたうように、移動していました。それからは、簡単に見つけられるようになりました。

(M. M.)

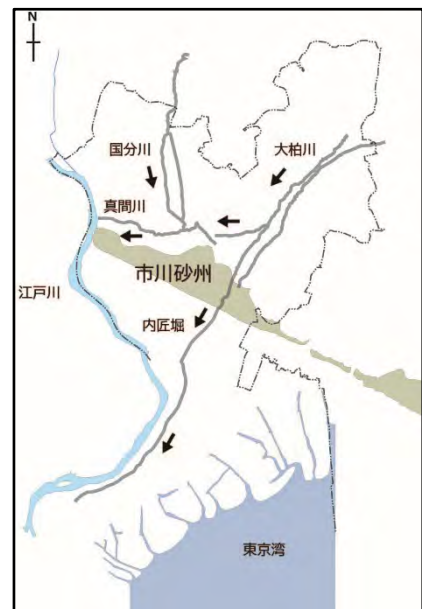
No.3

角罕言

市川市域

市川砂州

真間川水系がまっすぐ東京湾に向かわず、途中で西向きに江戸川に注ぐのは、市川砂州に邪魔されるからです。市川砂州は市域の中部にある砂質の高まりで、京成線が砂州上を通っています。JR市川駅の北側、総武線と国道14号の間にある階段数段の段差が砂州南側のふちにあたります。この高まりがあるため水は南に流れることができず、砂州を避けるように西に向かいます。砂州の北側は水が溜まりやすく、この水を南側の田んぼに流すことは農業上の課題でした。のちにいくつもの砂州越えの川が作られますが、その先陣が内匠堀だったと言えます。





◆長田谷津より

- ・国の絶滅危惧種の魚・ホトケドジョウの生息環境を整備するボランティア活動を行いました(5/11)。水路の流れを良くしたり、水路周りの草を刈って園路を歩く人からも水路が見えるようになど、いろいろな作業をしました。合わせて水路に網を入れてみると、ホトケドジョウの成魚が何匹もとれました。ボランティア活動に参加していた詳しい人が、抱卵個体も確認してくれました。

金子謙一(自然博物館)

- ・ホオノキの大きな葉が食べられていたので、その近くを探すと新芽に擬態したオオアヤシヤクの幼虫がいました(5/13)。知らないとなまず発見できない擬態能力の高さです。別の時間に来ると葉を食べていましたが、動いていると普通の緑色のイモムシで、姿も丸見えでした。

稲村優一(自然博物館)

- ・ここ数年ミクリの株が目立ってきたと感じていましたが、今シーズンは予想よりも大きく広がり、花も複数地点で咲いていました(6/20)。もともと、それまでなかった場所に突然現れる傾向がありますが、たくさんのミクリの出現はうれしい誤算です。

金子謙一

- ・谷底に生えるエノキで、ヒダリマキマイマイを見つけました(6/24)。長田谷津では大型のカタツムリといえはミスジマイマイの印象がありますが、意識して探せばヒダリマキマイマイも意外といえるのかもしれませんが。
- ・今年は長田谷津でヒメギスの翅が長い個体が目立ちます(6/27)。

◆大町動物園内より

- ・目線の高さほどしかない低いクスノキに、アオスジアゲハが産卵に来ていました(5/1)。飛んでいったあと、葉を見るとうみだての卵がありました。
- ・動物園のザリガニ釣り場をコロギスの幼虫が歩いていました(6/6)。以前、昆虫観察にいらした方から、写真を見せてもらったことがあり、見たいと思っていたので、嬉しかったです。

以上 稲村優一

◆江戸川放水路より

- ・30年以上前からあるハマエンドウの小群落の確認に行きました(5/8)。ちょうどいいタイミングだったようで、青紫色の花を見ることができました。
- ・潮が上げてきた干潟の水際をコチドリが1羽、とことこ走りゴカイをつまみ出して食べていました(5/8)。満潮時は人がいないので、安心して餌を探せます。
- ・河口にあるハマヒルガオ群落を確認しに行きました(6/5)。震災の時の津波で水際の砂浜が流されて、その群落は消滅しましたが、堤防の隙間を利用して群落が生き残っています。砂浜のツルナ群落がなくなったのは残念でした。

以上 金子謙一

5月はさわやかな晴天と肌寒い雨の日が交互にありました。6月10日頃に梅雨入りした後も、晴れて暑い日が続き、中旬からは毎日30度を超え、6月としては記録的な暑さとなりました。

ホームページをご利用ください



自然博物館では、市川市域の自然に関する情報や解説を、ホームページ（webサイト）に掲載しています。展示室のパネルよりも、ホームページの方が情報量は格段に多いです。検索で「市川自然博物館」と入力していただき、下に示した画面が出てくれば、それが当館のホームページのトップです（検索1番目を開くと市川市役所のページに誘導されてしまう場合がありますので、その時は検索2番目を開いてみてください）。



ホームページの内容

- ・ご利用案内
- ・展示紹介、詳しい解説
- ・行事案内
- ・自然観察の記録、オリジナル動画
- ・博物館だより、出版物のご案内



＜行事のご案内＞

長田谷津は、
大町公園の自然観察園のもともとの呼び名です。

○長田谷津散策会

（申し込み不要・荒天中止）

季節の風景や動植物を楽しみながら、
ゆっくりと散策します。

集合：動物園券売所前 午前10時

解散：集合と同じ場所で 午前11時30分

○湿地の環境整備を

お手伝いしていただけますか

（要問合せ・荒天中止）

学芸員と一緒に環境整備作業を行います。

たとえば…湿地の草刈、枯れ枝のかたづけ、
水路の整備、など

集合：観賞植物園 午前10時

解散：集合と同じ場所で 正午

初参加の方は

・・・お電話で博物館までお問合せください。

湿地の中に入る作業もありますので作業内容や
身支度などについてご説明します。

	長田谷津散策会		湿地環境整備	
8月	9日	土曜日	おやすみ	
9月	21日	日曜日	28日	日曜日
10月	18日	土曜日	26日	日曜日
11月	16日	日曜日	23日	日曜日
12月	13日	土曜日	21日	日曜日
1月	18日	日曜日	25日	日曜日
2月	21日	土曜日	おやすみ	
3月	22日	日曜日	1日	日曜日
			29日	日曜日

第38巻 第3号（通巻第219号）

令和7年8月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館

（市川市教育委員会教育振興部）

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477